

# 時計台

SAPPORO INTERNATIONAL COMMUNICATION PLAZA FOUNDATION

# 前から

vol. 71  
July/2010

財団法人 札幌国際プラザ

〒060-0001  
札幌市中央区北1条西3丁目 札幌MNビル  
Kita1 Nishi3, Chuo-ku, Sapporo 060-0001  
JAPAN  
TEL:011-211-3670 FAX:011-211-3673  
E-mail:sicpf@plaza-sapporo.or.jp  
URL:http://www.plaza-sapporo.or.jp

北海道の森林保全と環境への配慮のため、道産間伐材を原料にした用紙、有害廃液の出ない「水なし印刷」及び大豆インキを使用して作成しています。



P02

## ■ 特集

### APEC貿易担当大臣会合 札幌にて開催



P04

## ■ 事業紹介

### 国際プラザの事業紹介



P08

## ■ 市民交流

### 札幌・ノボシビルスク 姉妹都市提携20周年 ほか



P13

## ■ コンベンション

### 台湾・不動産会社 インセンティブツアー札幌開催 ほか

# APEC貿易担当大臣会合 札幌にて開催

## 国際プラザも積極的に協力!

アジア太平洋経済協力(APEC)の貿易担当大臣会合、第2回高級実務者会合及び関連会合が5月26日(水)から6月6日(日)まで札幌コンベンションセンターを主会場として開催されました。大臣会合には日本、米国、中国などアジア太平洋地域の21カ国・地域が参加し、期間中、各国・地域の政府関係者や報道関係者ら計1,000人以上が来札しました。今年には日本が15年ぶりに議長国となり、国内各都市で関連会合が開かれますが、札幌での会合は最初の閣僚会合となり、主要テーマである貿易問題が話し合われました。

国際プラザとしても誘致の段階から協力し、開催決定後においても、2009年の開催国シンガポールへの事前調査団に加わるなど、積極的に関与いたしました。開催に向けては市民への情報発信、事務局事業への協力などを行うとともに、今年1月から6月までは職員2名をAPEC貿易担当大臣会合北海道・札幌実行委員会事務局に派遣し、国際プラザとの情報共有及び事業連携を行いました。さらに会期中には接遇、連絡調整要員として職員2名を追加派遣したほか、5日(土)の大臣配偶者プログラムの同行通訳としても支援協力を行いました。

こうした連携、協力は開催に向けての機運を高め、「APEC貿易担当大臣会合」という大きな国際会議の成功へつながったのではないかと思います。国際プラザでは今回の取組みを活かし、今後も関係機関・関連企業との連携、協力により、国際会議誘致活動に積極的に取り組んでまいります。

### ゲストを迎えるプロトコル研修

国際情勢講演会開催

APEC開催に先立ち、4月22日(木)に「海外からのゲストを迎えるためのプロトコル」をテーマに国際情勢講演会を開催しました。この講演会は海外からのゲストを迎え入れるために必要なプロトコル(国際儀礼)を学ぶことを目的に、一般市民、ボランティア、主にAPEC受入れを担当する道庁、札幌市職員など関係機関の方々、約110名が参加しました。

外務省大臣官房

儀典賓客室長の柴田和夫氏を講師にお迎えし、国旗の掲揚、席次、食事等のプロトコルについて具体例を交えながらお話いただきました。参加者はメモを取りながら耳を傾け、これから迎える海外からのお客様をおもてなしするために必要なプロトコルを熱心に学ばれました。



### 情報ステーションが大活躍

市民への情報発信

国際プラザでは、市民の方々へのAPECに関わる情報発信の一環として、3Fサロンに「APEC情報ステーション」を開設しました。回転式の情報ボードに、APECに関連する市民向けイベントの情報や、APEC参加国・地域の紹介、札幌の国際会議誘致の取組みを掲載したほか、パンフレット等の配架も行いました。



### 料理で学ぶ5カ国の文化

APEC事務局事業への協力

APEC貿易担当大臣会合北海道・札幌実行委員会事務局ではAPEC参加国・地域との文化交流を体験する機会として「APEC国と地域の家庭料理教室」を開催し、国際プラザに所属する国際交流員も講師として協力しました。料理教室はロシア料理、韓国料理、中華料理、米国税料、オーストラリア料理の計5回にわたって開催され、参加者はそれぞれの地域の家庭料理を調理、試食しながらAPEC参加国・地域の生活や文化を身近に感じる機会となりました。



### 市民によるおもてなし

ボランティアの活躍

### インフォメーションデスクの運営協力

APECで来札された方への案内・インフォメーション充実のため、新千歳空港およびJR札幌駅に延べ144名の外国語ボランティアを派遣しました。関係者の移動に伴い、案内業務は5月25日(火)から開始され、新千歳空港は6月4日(金)まで、JR札幌駅は6月6日(日)まで行いました。公共交通機関を利用されるAPEC関係者の方々への「おもてなし」として、新千歳空港では、ゲートを出た方にホテルやJRまでの道案内などを行い、また、JR札幌駅では、各宿泊施設への道案内を行いました。対応人数は多くはなかったものの、外国語ボランティアの方からは「APECを知る良い機会となりました」という報告も受けました。



新千歳空港にて



お茶を味わうマリ・パンゲストウ大臣(インドネシア)

イベントコーナーでは、会期中にいつでも自由に立ち寄ることができる形式でお茶とお菓子を提供しました。また、お時間のあられる方にはお点前をご覧いただき、外国語ボランティアの通訳を介して説明をしたり質問に答えるなど、茶道についての紹介を行いました。普段なかなか目にするのではないお茶会や着物のボランティアにカメラを向ける姿も多く見られ、実際にお茶点を体験される海外の方もいらっしゃいました。厳粛な空気の漂う会場でしたが、抹茶や和菓子を味わいつつ日本の伝統文化を体験できるこのコーナーで、会議参加者の方々もホッと一息つくことができたようでした。

多くの方にお立ち寄りいただいたリフレッシュイベントですが、4日(金)にはムハマド・ヌール・ヤコブAPEC事務局長、5日(土)には上田文雄札幌市長と高橋はるみ北海道知事、そして6日(日)にはマレーシアのムスタバ・モハメド大臣、インドネシアのマリ・パンゲストウ大臣、ペルーのマルティン・ベレス大臣が次々に訪れるなど、ボランティアにとっても大変貴重な交流の機会となりました。



お茶点を体験する参加者

### APEC貿易担当大臣会合を終えて

事務局へ出向した職員より

私が所属した情報発信班では、道民の皆様に対しAPEC貿易担当大臣会合の札幌開催を広くお知らせし、歓迎ムードを醸成するとともに、会合関係者に北海道・札幌の魅力を知っていただけるよう、様々な形で情報提供を行いました。一月下旬より開催したパネル展では、道内34か所の施設を巡回しました。また、外国の報道関係者を対象として実施したプレスツアーでは、さっぽろ雪まつり会場やアイヌ民族の文化施設などの視察をおし、冬の魅力を肌で感じてもらい、その魅力をそれぞれの国・地域で伝えていただくことができました。このほか、会合の開催期間中には、会場などにおいて関係者の方々へ、交通や飲食・観光等の情報提供を行いました。今回の会合をおし、より多くの方々に北海道・札幌のことを知っていただき、新たな交流につながれば幸いです。

多文化交流部 望月 康広

1月からの約半年間、「2010年APEC貿易担当大臣会合北海道・札幌実行委員会事務局」へ出向の機会を得て、在京外国人記者をお迎えした事前プレスツアー、道民・市民を対象とした各種フォーラム・シンポジウム開催、会合参加者・報道関係者向けの情報誌などの作成、また、会期中には各エコノミー大臣や高級実務者をお招きした地元歓迎レセプション、記念植樹、大臣エクスカージョンなどの準備や実施に携わりました。

実行委員会は北海道庁、札幌市役所、地元民間企業からの職員で構成されており、普段は接することがない業種のスタッフと連携した業務で戸惑うこともありましたが、新しいネットワークもでき今後につながる非常によい経験となりました。

閣僚級会議を身近に支援できた半年間は、日常業務で会議支援を行うビューロー職員にとっても非常に貴重な体験でした。この経験を糧に今後のMICE誘致に力を入れて行きたいと思っております。

コンベンションビューロー 村上 一也

### リフレッシュイベント「茶道体験」

6月3日(木)から6月6日(日)の間、札幌コンベンションセンターに、リフレッシュイベントとして茶道体験スペースが設けられました。延べ36名の日本文化体験ボランティアが、4日間をとおして約200名の会議参加者等にお茶を振舞いました。



JR札幌駅にて

外国語ボランティアの方からは「APECを知る良い機会となりました」という報告も受けました。



# 札幌国際プラザの事業紹介

## コンベンション事業

国際プラザでは、「コンベンション事業」として、コンベンション(学会や国際会議、総会など)を札幌に誘致することや、企業が従業員等に対して行うインセンティブ・ツアー(報奨・研修を目的とする旅行)を札幌に誘致しています。一般的な観光目的ではなく、

会議出席や報奨・研修旅行に招待されるなど、ある特定の目的を持って来札する訪問者の拡大を通じて、札幌市の集客に貢献することを目的として活動しています。

## 「札幌MICE総合戦略」と「Sapporo MaxiMICE!」

世界レベルのMICE都市としての成功を目指して、戦略性を持ってMICE推進に取り組んでいく必要性から、札幌市は「札幌MICE総合戦略(仮称)」を検討しています。

検討に際し、札幌コンベンションビューローでは協議・協力を行うとともに、キャッチコピー「Sapporo MaxiMICE!」を提案しました。MICE受入基盤や参加者の満足度を最大化(=Maximize)していこうとの決意を込め、産業界との連携も視野に、さまざまなMICE関連プロジェクトに使用していきたいと考えています

Sapporo MaxiMICE!

Sapporo MaxiMICE! ロゴ

## インセンティブ・ツアーの誘致

国際プラザは、国内ではいち早くインセンティブ・ツアーの誘致に取り組んできました。アジアでの北海道人気もあり、韓国、台湾、香港を中心に大規模なインセンティブ・ツアーが札幌や道内各地で開催されています。

近年、期待の大きい中国市場からは、インセンティブ・ツアーを取り扱う北京・上海や香港のエージェントを招き、市内のホテルや観光施設の視察など、旅行目的地としての札幌・北海道の魅力や優位性をPRしています。また、上海のインセンティブ専門見本市の視察や北京市内の企業訪問など、現地に赴いて情報収集や人的ネットワークを拡大し、今後の誘致

戦略を検討しています。

また、インセンティブ・ツアーを受け入れるホテルや飲食店等では「おもてなし」に工夫をこらし、思い出に残る感動を提供しています。こうしたことがリピーターという個人旅行を誘発し、たくさんの人々が札幌に再来する機会をつくっています。



札幌視察受入れ



北京企業訪問



すしの握り体験

## 地元コンベンション関連業界との連携

コンベンションやインセンティブ・ツアーの誘致には、市内コンベンション関連業界との連携が欠かせません。主催者に提供する「コンベンション施設ガイド」や「プランナーズガイド」の発行、大規模コンベンションの誘致勉強会、コンベンションアカデミー(人材育成事業)を実施するなど、これまでに受け入れ都市として備えるべき条件整備を進めてきました。今後もさらなる誘致拡大に向け、様々な取り組みを行っております。

### さっぽろMICE推進検討会議



「MICE」とは下記のとおり、それぞれの頭文字をとった総称です。「さっぽろMICE推進検討会議」は、「MICE」誘致拡大のためには何が必要かを意見交換する場として、市内コンベンション関連企業110社で組織する「NPO法人コンベンション札幌ネットワーク」や、市内30ホテルが加盟する「札幌市内ホテル連絡協議会」、国際プラザの三者で立ち上げました。初回会合には観光庁から大滝昌平・国際会議担当参事官を招き、政府の「MICEアクションプラン」について説明いただいております。地元行政機関のオブザーバー参加のもと、具体的な戦略を打ち出していく計画です。



大滝参事官

### 国際観光コンベンションフォーラム

また、連携事業が全国区までに発展した「国際観光コンベンションフォーラム」があります。平成18年度から始めた同フォーラムは、様々な角度からコンベンション振興を議論する場として注目を集め、札幌開催のみならず、一昨年は島根県松江市で、来年3月には静岡県富士市での開催が予定されています。

そうした中、観光コンベンションにおける産学官の連携促進と課題研究を行うために、「日本コンベンション研究会」が発足し、事務局を国際プラザ内に置いています。



## コンベンションの誘致

国際会議等を札幌へ誘致するために、国内外のコンベンション専門見本市に出展しています。特にタイのバンコクで開かれるアジア最大規模の専門見本市「IT&CMAI」や、国内唯一の専門見本市「IME」(東京)には毎年出展して、バイヤーと呼ばれる会議主催者や企画会社と商談を行っております。そこで得られた有望な案件については

新たな企画提案を示すなど継続した情報発信に努めております。

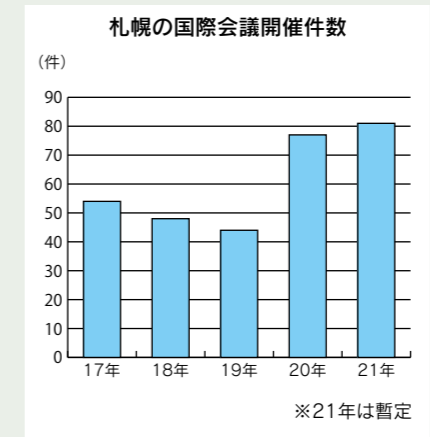
国際会議の開催については、JNTO(日本政府観光局)が国内の実績を取りまとめています。札幌は平成20年(1~12月)には77件、都市別では第8位と順位を上げました。平成21年の実績は今年11月ごろに発表される予定です。



IME



IT&CMAI



### 国際会議開催状況の他都市との比較(JNTOコンベンション統計)

16年		17年		18年		19年		20年			
順位	都市	件数	順位	都市	件数	順位	都市	件数	順位	都市	件数
1	東京23区	428	1	東京23区	357	1	東京23区	460	1	東京23区	440
2	京都	170	2	京都	137	2	京都	154	2	京都	183
3	大阪	94	3	名古屋	108	3	福岡	126	3	横浜	157
4	名古屋	89	4	横浜	105	4	大阪	111	4	福岡	151
5	横浜	82	5	福岡	97	5	名古屋	109	5	名古屋	109
6	福岡	76	6	大阪	89	6	横浜	103	6	神戸	89
7	札幌	65	7	つくば地区	60	7	神戸	76	7	つくば地区	82
8	千葉	59	8	神戸	58	8	つくば地区	64	8	大阪	76
9	千里地区	58	9	札幌	54	9	千里地区	49	9	仙台	51
10	つくば地区	56	10	仙台	42	10	札幌	48	10	札幌	44

注1:「千里地区」は、大阪府の豊中市、吹田市、茨木市、高槻市、箕面市を含む。

注2:「つくば地区」は、つくば市、土浦市を含む。

### JNTOの国際会議の選定基準

国際機関・国際団体(各国支部含む)又は国家機関・国内団体(各々の定義が明確ではないため民間企業以外は全て)が主催する会議で

- 参加者総数が50名以上
- 参加国が日本を含む3カ国以上(外国人参加者数には、プレス関係者、在日外国人は含めない)
- 開催期間(純粋な会議日数)が1日以上

## フィルムコミッション

フィルムコミッションは主に国内外の映画撮影の誘致に取り組んできましたが、今年3月末に国際プラザから分離し、新た

に設立した「札幌北海道コンテンツ戦略機構」が本事業を継続することになりました。

※)観光庁ホームページより

国際プラザの「市民交流事業」とは、外国籍市民と日本人市民が互いにコミュニティや文化を理解・尊重し、協力し合う住みよいまちづくりの実現を目指す事業です。言葉の違いを

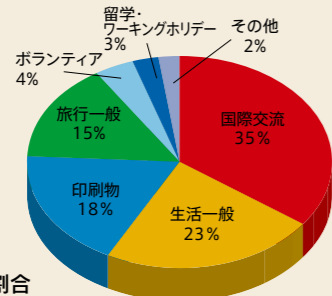
乗り越える方法やそれぞれの文化を知る機会、違いが有効に作用することなど、お互いの距離を縮める様々な事業を通して、国際性豊かな社会の実現に貢献することです。

## 交流サロンの役割

交流サロンは、年間約2万1千人の方々に利用されています。うち外国人の利用者は約4千4百人で2割強を占めています。

カウンターでは外国語ボランティアが様々な相談に対応しており、その件数は年間約2千3百件、うち国際交流、生活一般に関する問い合わせが上位を占め、全体の6割となっています。

また来館者同士が直接、情報交換を行えるようメッセージボードを設置しており、年間約1千5百件の利用があります。2台設置しているインターネット端末は、年間約1千3百人の利用がありました。



カウンター相談内容の割合

そのほかには、外国籍市民が札幌で暮らすために便利な生活情報キット、イベント情報やテレビ番組などを紹介する英文情報紙「What's on in SAPPORO」や英字タウン情報誌などを提供しているほか、海外新聞の閲覧も可能です。また、日本政府観光局認定「ビジット・ジャパン案内所」機能も持っており、観光で訪れた外国人のために札幌・北海道の観光相談、各種パンフレットやマップなどを提供しております。



日本人市民に対しましては、札幌市、北海道の国際交流に関する冊子や、市内の国際交流・協会の活動情報、ボランティア制度、留学セミナー情報を提供しているほか、外国語を話す機会として「レッツトーク事業」を実施しております。

特に「レッツトーク」は、学生など若い世代の方々により多く参加してもらえるよう、事業の時間帯、曜日などを工夫しながら実施しております。



さらに今年2月には、世界で約400カ所、日本では3カ所目となる「アメリカンコーナー」がジョー・ルース駐日大使立ち会いのもと、開設されました。DVD上映会や英語での読み聞かせなど、このコーナーを活用した様々な事業を行うこととしております。



このように、サロンは様々な役割を担っておりますが、外国人にとって容易に情報収集ができる場所であり、外国人の声を地域社会につなぐパイプでもあります。また、日本人にとっても海外や多文化への入り口となる場所です。小さなコーナーですが、国際交流・多文化共生の窓口として、必要不可欠なものと考えております。

## 多文化共生事業

札幌市の外国人登録人口は、毎年3%増加し、21年度末で9,385名。うち留学生は近年10%以上の伸びを示し、同年5月に1,294名となっています。

留学生については、大学側の受入強化が図られており、今後、急増する見込みです。

こうした中、外国籍市民の方々が、安心、快適に生活ができるよう、市民団体と連携して様々な事業を展開しています。

外国籍市民のための「防災ツアー」、外国人の医療に欠かせない医療通訳に関する「医療英語セミナー」を実施したほか、「多言語FM放送」を昨年度は7月から1月までの毎週金曜日に、市内4局のコミュニティFMを通じて、英語、中国語、ロシア語、韓国語で放送しまし

た。これらの事業は外国籍市民の方々の生活を支援する目的で行っており、今年度は新たに、携帯電話のメール機能を使って、防災情報や生活情報を多言語で提供できるシステムを構築中です。

また、国際プラザ外国語ボランティア「LINK」による外国籍児童の学習支援や、札幌市まちづくりセンターの協力を得て、同じ地域住民同士である外国人と市民との懇談会「多文化共生キャラバン」を実施しています。

そのほか、在留資格変更、就労、交通事故などの法律問題を抱える外国籍市民への支援として、法律セミナーや無料法律相談会を、弁護士で組織する「外国人法律支援ネットワーク」と連携して実施しています。



防災ツアー



医療英語セミナー



多言語FM放送



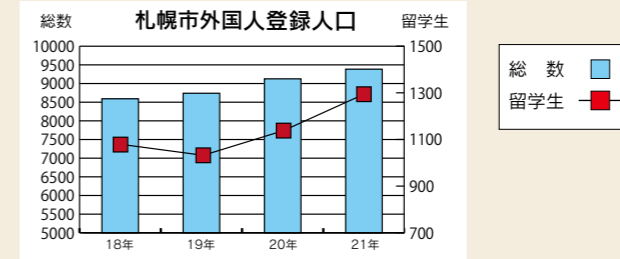
LINK学習支援



多文化共生キャラバン



法律セミナー



## ボランティア制度

国際プラザには「ホームステイボランティア」、「外国語ボランティア」、「日本文化体験ボランティア」の3つのボランティア制度があります。

「ホームステイボランティア」は、167家庭が登録しています。昨年度は、155名の外国人ゲストを迎えました。札幌市の姉妹都市ポर्टランド市からの親善訪問団をはじめ、道内の各大学の留学生を受け入れ、札幌と海外との絆を広げています。

「外国語ボランティア」は、現在16カ国語、471名が登録しています。札幌時計台での案内や、さっぽろ雪まつり、スキーマラソンといった行事やスポーツ大会、国際会議などのコンベンションの運営には欠かせない存在となっています。昨年度は33事業延べ713名が活動したほか、国際プラザの3階サロン・カウンターでもインフォメーション業務に延べ745名が従事しています。

「日本文化体験ボランティア」は、45名が登録しています。国際プラザに依頼のある日本文化体験派遣事業として、昨年度は9件 延べ110名が活動しました。

また、今年開催されましたAPEC貿易担当大臣会合においても、外国語ボランティア 延べ144名が札幌駅や新千歳空港で案内業務を、また日本文化体験ボランティア 延べ36名が、会議会場で日本茶を提供するなど、会議参加者への「おもてなし」で貢献しています。



ポर्टランド親善訪問団受入



時計台ボランティア



日本文化体験（着付）



日本文化体験（茶道）



案内業務（札幌駅にて）



スキーマラソンへ派遣



APEC会場で日本茶を提供

## 人材育成事業

札幌市の友好都市である中国遼寧省瀋陽市の遼寧大学漢語国際教育学院に札幌の大学生を派遣しています。これまで4回、昨年の11名を含め合計41名の学生を派遣しました。学生たちは出発前に事前研修を十分積み、現地では様々な見聞を広めるとともに、語学研修、同世代との相互理解を深めてきております。

この講座の修了生に対して、駐札幌中国総領事館から「国費留学生枠」をいただけるようになりました。既に3名の学生が昨年から国費留学生として中国北京市と瀋陽市の大学で学んでおり、今年9月には、新たに1名が中国へと出発する予定です。さらに、今年8月の市民

訪問団の瀋陽訪問の際には、彼らが携わることとなっています。

今後、様々な面でつながりが深くなる中国と日本のインターフェースとして活躍する人材を、大学等と連携しながら育成してまいります。

また、札幌市内の小中学校が実施する総合学習の支援を行っております。国際理解教育を推進する学校からの要請に基づき、国際交流員を小学校や中学校などに派遣したり、国際プラザ見学の受入れを行ったりしました。

それぞれの国の歴史や文化と、日本とのつながりを紹介するなど、グローバル化の時代であること、他国の人とどのようによい関係を保つか、を考えてもらう機会としています。平成12年度から実施しており、昨年度は41校、2,930名の児童・生徒に対応いたしました。



地元小中学生とも交流



授業の様子



総合学習

# 札幌・ノボシビルスク 姉妹都市提携20周年

■国際プラザ・市民訪問団が  
ノボシビルスク市を訪問!

札幌にとって4番目、1番新しい姉妹都市、ロシア・ノボシビルスク市との姉妹都市提携20周年を記念し、6月23日〜27日の期間、札幌から市民訪問団がノボシビルスク市を訪問しました。

初日の6月23日正午頃、長いフライトの後、ノボシビルスク市トルマチェボ空港に到着。ノボシビルスク市立「シベリア・北海道文化センター」職員とボランティア通訳の皆さんの暖かい歓迎のもと、ノボシビルスク市に迎え入れられました。

同日夕方には、ノボシビルスク市立学校「第22番リセー」を訪問。児童達による日本語でのスピーチや歌、武道の披露を見学しました。また、学校内を見学し独自の教育プログラムや日本の学校との違いに感嘆しました。

24日はノボシビルスク市外地に位置するアカデムゴロドク（大規模な学術施設集中地域）を訪問しました。ここでは、地質学博物館などを訪れノボシビルスクで発掘された鉱石を見物。専門的な話に耳を傾けました。



ノボシビルスク国立教育大学

25日はシベリア・北海道文化センターで日本文化祭に参加。約300名ものノボシビルスク市民に日本文化を紹介しました。同日午後には、ノボシビルスク国立教育大学を訪問。日本語学科の学生達と日本語での会話を楽しみました。その後、同市民訪問団に参加している北海道国際音楽交流

最終日27日はメインイベントの「まちの日」開会式に参加。野外ステージ上での歌や踊りの華麗なパフォーマンスを観望しました。午後

はシベリア・北海道文化センターで、晴天の中、20周年記念イベントが幕開けしました。その後ノボシビルスク市役所にて行われた姉妹都市提携式典に参加。厳粛な雰囲気の中で両市長による再調印が実施されました。午後からは、場所を移して祝祭コンサートに参加。コンサートではハイメスによる琴の演奏が披露されました。その日は夜は国際プラザ主催の夕食会を実施。ノボシビルスクからの招待者約30名に加えて、市民訪問団のほか札幌からの訪問団（市長団、議員団、よさこい訪問団）も集まり、賑やかな会となりました。



ハイメス・グリーンカ音楽院共催記念コンサート

協会（ハイメス）とノボシビルスク国立グリーンカ記念音楽院との共催コンサートに参加。今回寄贈した琴の音色が会場に響き渡りました。

26日午前はレーニン広場での「姉妹都市札幌」写真展の開



ロシアの伝統儀式(ロシア文化祭)

7月〜8月上旬にかけて、ノボシビルスク市から4つの訪問団が次々に来札します。第1団は、7月5日〜13日に「ノボシビルスク小学校訪問団」（小学生とその親達 全10名）が来札。札幌市の小学校を訪問しゲームや歌などのプログラムを通して交流を行いました。第2団としては、7月17日〜28日に「ノボシビルスク日本語青年訪問団」（日本語を学ぶ青年達 全21名）が来札します。大学訪問などの交流事業のほか、市民向けプログラムの「ノボシビルスクを知るミニ・セミナー&レクチャーロシア語ユーススペシャル」、「カルチャーナイト2010参加事業 ロシアン・ナイト」も実施します。

第3団「ノボシビルスク市長訪問団」、第4団「ノボシビルスク市民訪問団」は8月上旬に来札。この期間中には、姉妹都市提携記念式典や祝賀会のほか、姉妹都市提携20周年を記念しての「第20回ロシア語詩のつどい」や「詩の朗読と音楽の夕べ」などの市民向けプログラムを実施します！

各事業については、「プラザだより」やホームページに掲載しています。皆様も、過去最大のロシア月間をぜひお楽しみください！



ノボシビルスク小学校訪問団 札幌到着！

## 札幌の姉妹都市紹介 パネル展

6月16日（水）から22日（火）に、札幌地下街オーロラコーナーにて、札幌姉妹都市協会主催の「札幌の姉妹都市紹介パネル展」を開催しました。

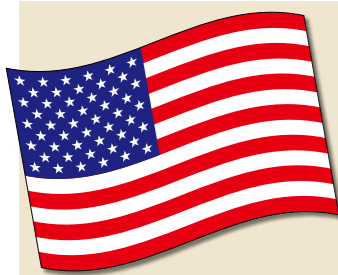
札幌の4つの姉妹都市である、アメリカ・ポートランド市、ドイツ・ミュンヘン市、中国・瀋陽市、ロシア・ノボシビルスク市を紹介する写真パネル約80枚と、各都市の歴史、みどころ、イベント、暮らしなどを解説したパネル展示を行いました。

今年、瀋陽と友好都市提携30周年、ノボシビルスクと姉妹都市提携20周年の年にあたることから、両市の写真パネルを中心に紹介を行いました。



## サロンが大盛況 ～アメリカンコーナーイベント～

今年2月4日に国際プラザサロンに開設しました「アメリカンコーナー」。500冊近い書籍やDVDもあり、アメリカの文化を理解する絶好のチャンスです。国際プラザでは、在札幌米国総領事館と共催でさまざまなイベントを企画しております。ここで、その内容をご紹介します。



■DVD上映会  
5月24日（月）国際プラザ5Fホールで「アメリカンコーナー」開設記念DVD上映会が行われました。コーナーに配架しているDVDの中から在札幌米国総領事館の選択によるDVDを上映し、ディスカッションをすることで、映画から読み取れるアメリカの時代背景などを理解し、学びを深めるという目的で行われ、28名の参加がありました。映画『地上より永遠に』(From Here to Eternity)を日本語字幕付きで観賞し、その後映画背景等についてジョン・テイラー領事が解説を行い、領事と参加者の間で自由な意見交換を行いました。フランク・シナトラなどの出演俳優の役柄や出演の背景、映画製作の裏話もありましたが、第二次世界大戦時のハワイでのアメリカ陸軍が舞台となっているため、ディスカッションは主に戦争と平和について言及されました。テイラー領事の実体験に基づく、熱心で人の心に訴えかけるメッセージは参加者の心を強くうち、参加者もそれぞれに戦争と平和、特に戦争後のアメリカと日本の友情などについて思いを真剣に発表していました。今回は中国人留学生も参加しており、国の単位を越えて個人が普遍的に持つ平和への思いを語り合うことができました。



道文化センターでのロシア文化祭に参加。ロシアの伝統的な音楽や民族衣装にふれながら、最後の交流を満喫しました。

## ノボシビルスク市から 訪問団が来札!

## 絵本よみかせ

6月12日（土）に国際プラザ3Fサロンで「アメリカンコーナー」開設記念絵本よみかせが行われました。12組の児童とその保護者が参加され、総勢27名となりました。



在札幌米国総領事館ダーナ・ウェルトン総領事がまずは日本語で絵本を読み、同じ絵本の英語版を読み聞かせるといふ方法で、優しい声で子供たちに語りかけました。一冊目はエズラ・ジャック・キーツの「ゆきのひ」、二冊目は「月夜のみみずく」でした。子供たちは日本語で内容を理解した後、聞こえてきた英語には新鮮な驚きがあるようで真剣に聞き入っていました。絵本の絵も美しく、小さな絵本ながらも広がる大きな世界に大人も魅せられました。

# 万が一の災害時のために

## 国際プラザ防災事業紹介

札幌市には現在約9,400名の外国籍市民が暮らしています。その中には地震等の災害に対する知識や経験のない方も多く、また日本語の理解度によっては災害時における情報弱者となる可能性もあります。そこで国際プラザでは、多文化・多言語が背景にあることが原因で困難な状況におかれることがないよう、外国籍市民を対象とした防災に関する支援を行っています。

### 『防災センター見学会』

外国語ボランティアネットワーク多文化共生グループ「SKY」との共催で、来日間もない留学生を対象に札幌市民防災センターの見学会を実施しています。4月17日(土)に実施した見学会には、10カ国13名の留学生が参加し、地震・煙道通過・消火などを体験しました。また道中で地下鉄利用方法を学び、センター見学後に大通公園、時計台などに立ち寄るなど、今回はツアー形式での実施となりました。最後に国際プラザ3Fサロンにて、カウンセラーボランティアの方からサロンの紹介をしていただきました。

# 時計台案内活動が本格スタート

## 外国語ボランティアネットワーク自主事業



時計台の歴史や構造や窓ガラスの秘密など、札幌のシンボルである時計台について説明をし、その素晴らしい景色を多くの方々に広めています。この活動は今年度11月末まで続けられる予定です。今年、ボランティアネットワークとして時計台活動のリーダー(連絡係)を務めていらっしゃる吉村邦夫氏は「たくさんの方々が来訪し札幌の歴史的文化財に立ち寄りてくださることを期待しています。」と新たな活動に意欲を燃やしております。

6月1日(火)より、国際プラザ外国語ボランティアネットワークの自主活動として、時計台案内活動を開始しました。今年度は、休館日を除く午前中と午後2時に案内活動を行い札幌へ観光にいらっしゃる方々への「おもてなし」を充実いたします。主な活動は、外国語ボランティアネットワークのメンバーが時計台内1階にブースを構え、時計台を訪れた観光客などに案内を行うことです。外国人の方には語学を活かし、日本人の方には「おもてなし」の心で時計台の構造や窓ガラスの秘密など、札幌のシンボルである時計台について説明をし、その素晴らしい景色を多くの方々に広めています。この活動は今年度11月末まで続けられる予定です。今年、ボランティアネットワークとして時計台活動のリーダー(連絡係)を務めていらっしゃる吉村邦夫氏は「たくさんの方々が来訪し札幌の歴史的文化財に立ち寄りてくださることを期待しています。」と新たな活動に意欲を燃やしております。

# 外国語を活用した「まちづくりの担い手」へ

## 外国語ボランティア新規登録説明会

5月18日(火)、20日(水)、22日(土)の3日間、わたって今年度の外国語ボランティア新規登録説明会が行われました。全体として154名の方が参加。そのうち、登録をされた方は137名となりました。今回、第一部では札幌市の国際化の流れ、国際プラザの概要説明、「まちづくりの担い手」としての外国語ボランティアの役割について、第二部では外国語ボランティアネットワークによる説明会を実施いたしました。特に第二部では、登録者の方々が自主活動グループ内容の説明を熱心におこない、長時間にわたる説明会にもかかわらず、参加した方々は先輩ボランティアの方々の実際の活動を聞き、活発に具体的な質問をするなど、ボランティアの方々と同様に和気あいあいと交流が行われていました。これからのボランティア活動へのやる気も満ちた説明会となりました。



### まちづくり

# 市民交流部から「多文化交流部」へ

多文化共生、国際交流の充実にむけて

定住外国人が増加している中、多文化共生の推進が必要となっております。国際プラザでは、このたび「市民交流部」から「多文化交流部」に名称変更し、外国人が「あんしん」でできるすみや、すいまちづくりを目指し、これまで以上に取組みを強化します。ここでは、リニューアルした「多文化交流部」の事業の一部をご紹介します。

### 連携



※みんなのラジオは毎週金曜日午後3時～4時の番組「そら色ステーション」内で放送します。  
7月2日、12月15日15時35分～50分  
12月10日、1月23日15時30分～35分  
中央区:ラジオカロスサッポロ ..... 78.1MHz  
豊平区:FMアップル ..... 76.5MHz  
西区:三角山放送局 ..... 76.2MHz  
東区:さっぽろ村ラジオ ..... 81.3MHz  
放送はインターネットでも聴きいただけます。  
[http://plaza-sapporo.or.jp/itizen/abunka/tabun-ka\\_radio.html](http://plaza-sapporo.or.jp/itizen/abunka/tabun-ka_radio.html)

# 地域の国際化に向けた取り組みも開始

## 札幌圏大学国際交流フォーラムが総会・情報交換会

札幌圏の大学・短期大学が国際交流等に関する情報交換を目的として1989年に設立した札幌圏大学国際交流フォーラムは、現在23の大学および短期大学が会員校となり、事務局を国際プラザに置いて活動しています。今年度の総会は去る6月11日(金)に実施しました。平成21年度の決算報告、平成22年度の予算案、多文化共生や地域に開かれた活動的なフォーラムとするための会則の変更などを行いました。また8年間幹事長として活躍された本間利久氏(北海道大学大学院情報科学研究科教授)はこの総会でご退任されることとなり、蟹江俊仁氏(北海道大学大学院工学研究科教授)が新しいフォーラム幹事長としてご就任されることになりました。さらに今年度からは各幹事校も新たな役割を持ち、活発な事業展開となる予定です。

第2部の情報交換会ではフォーラム会員同士が懇親を図るとともに各大学の情報交換など活発に行われました。今後、札幌圏の大学はますます活発な国際交流の促進が行われると同時に地域との結びつき、留学生対応など多文化共生推進の一翼を担っていくことになるでしょう。



### 共生

### 市民参加

# 家族で国際交流を楽しもう!

## ホームステイフォト展・ホームステイボランティア説明会

国際プラザのホームステイ制度は、国際交流を目的に外国から札幌を訪ねる方や道内の留学生をボランティアとして家庭に受け入れるものです。1968年の制度発足以来、多くの家庭・ゲストが、衣食住を共にしたホームステイを通して、国際交流を楽しみ、お互いの国の生活や文化に対する理解を深めてきました。

国際プラザでは札幌ホームステイ協会との共催で、受入家庭から寄せられたホームステイの写真を紹介する「ホームステイフォト展」を毎年開催しています。昨年度のフォト展は、12月にエルプラザ、3月に市役所ロビーにて開催しました。多くの方が足を止め、楽しそうに見学する姿が見られました。

また3月13日(土)には「ホームステイボランティア説明会」家族で楽しむ国際交流」を開催しました。国際プラザのホームステイ制度を説明すると共に、実際にホームステイボランティアとして活動されている方々の体験談や、ホームステイをした留学生の体験談等を通してホームステイの魅力を紹介しました。当日参加者の中から登録家庭も誕生し、新たな国際交流につながる説明会になりました。



# 市民交流

# 市民交流

## 日本のアニメを

テーマに講演  
アメリカを知るセミナー

6月18日(金)、国際プラザ5Fホールにおいて、「アメリカを知るセミナー」が開催され、約70名の方が参加されました。今年7月に任期を終えるアメリカの国際交流員メーガン・ウッドワードが、皆様へのご挨拶を兼ねて行った講演となりました。

講演では「アメリカにおける日本文化の影響」アメリカに日本の漫画?」と題し、漫画を初めとした日本のサブカルチャーがどのようにアメリカに影響をおよぼしているのかについて語られました。日本では区別のない「アニメ」「漫画」「カートゥーン」という言葉の違いについて、アメリカと日本における時代背景の説明を加えながらわかりやすく説明されました。また、日本の名作といわれる映画や有名な漫画が与える意外な影響がたくさん紹介され、感心する声が多く聞きました。

講師が日本に興味を持ってたきっかけとなった「漫画」をテーマに熱く語られた講演は、講師・参加者のどちらの心にも残るものとなりました。



## 夜間も開催

レットトゥーク英語ナイトスペシャル

6月2日(水)から29日(火)までの間、「レットトゥーク英語6月ナイトスペシャル」が週に1度、合計5回にわたり開催されました。水曜日の昼時間帯に行っている通常のレットトゥーク



英語に來れない方を対象とし、各回約30名の方が参加されました。中にはフランスの方や中国の方もいらつしたり、在札幌米国総領事館のジョン・テイラー領事も参加された会があったりと国際色豊かな会となりました。

国際交流員のメーガン・ウッドワードがコーディネーターとして、「アメリカと日本でのジェスチャーの違い」、「アメリカのスラング」など、毎回違うテーマでミニ・レクチャーを行い、参加者の方々は英語表現を学ぶだけではなく、ペアになって会話練習をしたり、チームになって寸劇を披露したりなど様々なアクティビティを行いました。参加者の方々は多少恥ずかしがりながらも積極的に活動に参加され、日頃の英語学習の成果を試すことができたようでした。

## 国際交流員の退任挨拶

スヴェン・トゥラシエフスキさん

時間が経つのは早いと分かっているつもりでしたが、2006年の秋に国際交流員として札幌に着任した時は、4年間が「あつ」と言う間に「経ってしまふ」とは思いもしませんでした。

今、退任挨拶を書きながら、この4年間は人生の中で大切なものになったと実感しています。

小学生から高齢者、社会的なマイノリティーから偉い人たちまで、いろいろな人と出会い、交流することができ、そのような幅広い仕事のおかげで毎日を満喫することができました。

札幌で仕事や生活をして、自国ドイツの独自性にも気が付きましたし、日本の特徴もいろいろ分かりましたが、この4年間で身に付けた知識を今後に生かしたいと思っています。

日本・札幌で過ごした4年間で人生の素晴らしい一時期になったことは、触れ合うことができた皆様のおかげだと強く思っています。心から深い感謝を込めて



国際交流員としての最後の挨拶にさせていただきます。

メーガン・ウッドワードさん

札幌に着いてから2年間、いろいろな思い出が心に残っています。藻石山の紅葉。夏の大通公園のビアガーデン。冬の凍った道を転ばずに走れた時の喜び。緑豊かな春の穏やかな雰囲気。

しかしそれ以上に、ここで出会った方たちが心に残っています。何でも助けてくれた忍耐強い同僚、私と同じ経験をしているほかの4カ国の国際交流員、私の顔を覚えてくれた店員やレストランウェイトレス、そしてもちろんレットトゥーク英語に参加してくれた方々。本当に忘れられない2年間を過ごしました。

これから私はアメリカで外交官になることを目指します。これからどこへ行っても、海外での初めてのマイホームは札幌になりました。この札幌の町に、そして札幌に住んでいる人に、ありがとうございます。日本では一期一会と言いますが、また会いましょう。



## IT&CM China 2010 出展 中国市場へ札幌をアピール

札幌コンベンションビューローでは、現在、新規ターゲット市場として中国からのコンベンション・インセンティブツアー誘致活動を積極的に展開しております。その一環として、去る4月7日(水)より3日間にわたり、中国・上海市において開催されたIncentive Travel & Convention Meetings China 2010 (以下、IT&CM China 2010)に出展参加し、プロモーション活動を行いました。

IT&CM China 2010は、35カ国、約300名のバイヤーと20カ国・地域、約200団体および企業が参加するインセンティブ旅行・国際会議等の専門見本市です。MICE市場において著しい成長を遂げている中国で開催されることから、中国市場への誘致活動を行う上で、有益な情報交換ができる場として注目されています。



初出展ながら札幌コンベンションビューローは、中国、シンガポール、マレーシアなどのコンベンション・インセンティブツアー主催者や旅行会社を中心に32件の商談を行い、人と人とのつながりが重要とされる中国において新たな人的ネットワーク構築の足がかりをつかむことができました。今後は、このネットワークを最大限に活用し、中国からの誘客増大へ向けて誘致活動を行っていきたく思います。



## 台湾不動産会社 インセンティブツアー札幌開催

札幌コンベンションビューローでは、これまで台湾、香港、韓国といったアジア地域でのインセンティブツアー誘致活動に積極的に取り組んでまいりました。長年にわたる誘致活動により前述地域からのインセンティブツアーも年々増え、札幌のインセンティブツアー開催地としての人気が定着してきたといえます。

去る5月10日(月)には、台湾の不動産会社によるインセンティブツアーが開催され、総勢1,049名が5グループに分かれて来道し、札幌コンベンションビューローではミセスさっぽろとともに新千歳空港にて歓迎セレモニーを行いました。

一行は、4泊5日の行程で登別、函館、洞爺湖、小樽などを訪れ、札幌滞在中には、狸小路商店街でのショッピング、大通公園見学などを楽しみました。



札幌コンベンションビューローでは、2009年5月より、同ツアー取扱旅行会社に対する情報提供などの誘致活動を開始し、本年2月に開催された同社インセンティブツアー(総勢1,198名)開催時にも空港歓迎および記念品提供などの受入支援を行いました。同社は、7月にも、北海道にてインセンティブツアーを開催し、約700名が、十勝、富良野、札幌などを訪れる予定です。同ツアー取扱旅行会社担当者によりますと、北海道の雄大な大自然、美しい景色、新鮮な海の幸は、台湾でも根強い人気であるということです。札幌コンベンションビューローでは、今後も、あたたかいおもてなしの心で支援活動を続け、札幌の魅力を広げ発信し、アジア地域からのインセンティブツアー誘客増大を目指していきます。

### 韓国メデイカル視察団の受け入れ ～韓国地方医療院連合会・院長団・海外視察研修～

4月6日(火)から10日(土)の日程で、韓国の地方医療院連合会から、海外における医療現状の把握と研修を目的とした海外研修事業の一環として、連合会の病院長視察派遣団15名が、北海道を訪れました。今回の北海道研修の内、札幌での視察は2日間の日程で行われました。

初日は、地域の医療機関と連携し「地域完結型医療」を目指す市立札幌病院を訪問しました。市立札幌病院では、道内で唯一(国内では、32医療機関)の「感染症病棟」や札幌市内に4施設(北海道内9施設)ある内のひとつ「救急救命センター」で、



高度な専門の医療機器を見学し、公立の総合病院における高次な感染症対応や救急医療に関して、更には公立医療機関としての、地域連携体制などに関しての意見交換が行われました。

2日目は、医療法人社団「静和会」の協力により、介護老人保健施設である「エル・クオール平和」・介護医療を担う「平和病院」・自宅療養や在宅支援などの活動も行う「平和リハビリテーション病院」の3施設を視察しました。近年、韓国の医療現場においても、急速に深刻化している、高齢介護福祉医療。その現状と、民間の医療機関による地域に根ざした「介護・療養・診療・リハビリ」の一貫した包括的な医療活動に関して、活発な意見交換が行われました。

札幌コンベンションビューローでは、今回の視察受け入れにあたって、受入施設の紹介や依頼・調整などの支援をいたしました。現在、注目度・重要度の高いメデイカルツーリズムにおいて、様々な関連分野との連携・協力を活かし、今後にも積極的に受け入れ支援を推進することにより、グローバルな交流を通じて、地域の医療向上・発展に貢献いたします。



### 札幌MICEの“匂”を伝える 札幌在住英国人ライター リチャード・ホプキンス氏



リチャード・ホプキンス氏

札幌コンベンションビューローでは、海外へ向けた札幌MICEの発信と、札幌の持つ新たな魅力開拓の観点から、英文ニュースリリースの執筆を英国出身ライター、リチャード・ホプキンス氏に依頼しています。

同氏は、世界三大広告賞のひとつであるカンヌ・ゴールデン・ライオンズ賞を受賞するなど、英国の広告業界を舞台に第一線で活躍後、2002年、札幌に移住。札幌で暮らす英語話者や旅行者をターゲットにしたバイリンガル・マガジン「Sapporo Source」を創刊し、編集長を務めています。新たな視点でとらえた札幌の魅力を描いた同誌は、日本人読者も獲得し、人気を博しています。

札幌コンベンションビューローでは、札幌の街がもつ魅力と、全国に先駆けたユニークなMICE取組実績などを広く世界に向けて発信していくことで、次なるMICEの誘致につなげていきたいと考えています。



英文ニュースリリースはビューローのホームページに掲載しています。

### 札幌でのMICE開催を歓迎します POROCA、歓迎バナーの紹介



携帯にも便利、名刺サイズのPOROCA

札幌コンベンションビューローでは、市内で開催されるMICE参加者をお迎えるためのグッズを各種ご用意しています。

「POROCA (ポロカ)」は、札幌でのMICE参加者がいろいろな優待を受けられるカードです。市内15カ所にのぼる観光施設を優待価格で利用できます。また、日英併記になっていますので、海外からの参加者にもスムーズにお使いいただけます。

また、空港等では、市外からの参加者の皆様をオリジナルのスタンドバナーにてお迎えます。モエレ沼公園ガラスのピラミッドや前田森林公園など札幌の景勝地をあしらったデザインで、札幌滞在の幕開けを爽やかに演出します。

札幌コンベンションビューローでは、主催者のご要望に応じて、POROCAの提供およびバナーの出張を行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。



歓迎バナー

## コンベンションカレンダー 2010年8月～2010年11月

札幌コンベンションビューローでは、札幌市内で開催が予定されている主なコンベンションで、主催者側から公表が許可されているもののみ、ホームページ上の「コンベンションカレンダー」にて公開しております。コンベンションカレンダーは半期に一度更新をおこなっており、約1年先までの開催情報だけでなく、既に開催された過去の情報も提供しております。  
<http://www.conventionsapporo.jp/j/meeting/calendar/calendar.html>

国際コンベンション		
8月	国際ワークショップとチュートリアルセミナー「特異分散と動く界面」	
8月	第35回 偏微分方程式論札幌シンポジウム	
8月	第10回 アジア・太平洋災害医学会	(300名)
8月	Universality and Scaling Limits in Probability and Statistical Mechanics	
9月	第23回日本動物細胞工学会2010年度国際大会(JAAPT2010)	(250名)
9月	第12回氷の物理と化学国際会議	(300名)
9月	International Society of Air Safety Investigators(ISASI2010 Conference)	(300名)
10月	第5回 Aliven Conference on Solar wind interaction with non-magnetized planets/moons and its influence on planetary	(200名)
11月	Mathematical Aspects of Image Processing and Computer Vision 2010(MAIPCV2010)	
国内コンベンション		
8月	第21回 日本心エコー図学会学術集会	(700名)
9月	土木学会平成22年度全国大会・第65回年次学術講演会	(7000名)
9月	日本土壌肥科学会2010年大会	(1000名)
9月	日本原子力学会2010年秋の大会	(1200名)
9月	第40回日本口腔インプラント学会総会・学術大会	(4000名)
10月	日本鋳造工学会 第157回全国大会	(1000名)
10月	第48回 日本社会保険医学会 総会	(1200名)
10月	第20回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会	(700名)
11月	第17回日本航空医療学会総会	(500名)
11月	プラズマ・核融合学会 第27回年会	(600名)

### コンベンション誘致・開催支援に関する各種お問合せ

当ビューローでは、独自のコンベンション誘致・シティPR活動を行うとともに、具体的にコンベンション開催をご検討される主催者の皆さまに心のかもったコンサルティング・サービスを展開しています。電話・FAX・電子メールのほか、ウェブサイトに設置のオンライン・フォーム(日本語、英語)をぜひご利用ください。

■問い合わせ先  
札幌国際プラザ・コンベンションビューロー  
TEL:011-211-3675  
FAX:011-232-3833  
E-mail:convention@plaza-sapporo.or.jp  
http://www.conventionsapporo.jp/j/  
  
(東京事務所)  
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2丁目10番1号 東京交通会館3階  
TEL:03-3216-5090  
FAX:03-3216-5199

### 国際観光コンベンション フォーラム2010開催

3月9日(火)～10日(水)、北海道大学にて「国際観光コンベンションフォーラム2010」が日本コンベンション研究会の主催により開催されました。



3月9日(火)～10日(水)、北海道大学にて「国際観光コンベンションフォーラム2010」が日本コンベンション研究会の主催により開催されました。

今回の全体テーマは「新たなMICEをデザインする」。基調講演として、札幌市の姉妹都市でもあるポルトランド市発祥の国際機関、グリーンミーティング産業協議会(GMIC)会長のエイミー・スパットウリサノ氏をお招きしました。「世界の潮流」環境配慮型コンベンションをテーマに、持続可能な視点からコンベンション産業を変革するために活動してきた経緯や、環境配慮型理念の提案などをお話いただきました。続いてのパネルディスカッションでは、全体テーマである「新たなMICE」について各パネリストの立場から現状の取り組みと課題を紹介し、地域の活性化に結びつけること、MICEの様々な可能性などについて議論しました。今回は新たにポスターセッションの場を設け、よりアカデミックな視点から観光コン

ベンションを捉え、幅広いテーマについて発表も行なわれました。



2日目は「韓国コンベンションの飛躍」日本が学ぶべきもの、「学び観光」北海道からの発信、「地域MICEの可能性」MICEイヤーに向けてのテーマで分科会が開催され、発表者を中心に活発な意見交換が行なわれました。また、終了後に実施されたエクスカージョンでは、サッカー用天然芝の入れ替えを終えた札幌ドームの見学と、冬の体験としてスノーシューツアーを行ない、まだ雪の残る森を歩いてリフレッシュしていただきました。

今回は韓国からも参加者登録があり、過去最高の140名の参加となりました。今後もこのフォーラムを通じて、日本だけでなく国際的な情報交換・情報発信が期待されます。国際プラザでは同研究会の事務局をNPO法人コンベンション札幌ネットワークと共同で担い、産学官の連携を推進しております。次回は静岡県富士市での開催を予定しています。

## サロンを リニューアルしました

この度、交流サロンをリニューアルいたしました。間仕切りを動かすことにより広い空間を確保し、様々な事業にも対応できるようになりました。是非ご来館ください。



## ご協力ありがとうございます

国際プラザ3Fサロンでは、「外国コインの回収箱」を設置しております。この外国コイン募金は海外旅行などで余った外貨を集め、ユニセフの活動資金にあてられるものです。

回収箱には日本円のほか、諸外国のコイン、紙幣が多数よせられました。お預かりした、コインや紙幣は、日本ユニセフ協会へ送金させていただきました。

サロンでは今後もこの募金箱を設置しておりますので、引き続きご協力よろしくお願い致します。



ユニセフ外国コイン募金

[http://www.unicef.or.jp/cooperate/coop\\_coin.html](http://www.unicef.or.jp/cooperate/coop_coin.html)

## 賛助会員募集

### 新規会員募集中

国際プラザは皆様のご支援、ご協力で支えられて、様々な事業を実施しています。会員の皆様には、プラザ主催のイベント、セミナー、講演会のご案内や優先受付などの特典があります。多くの皆様のご入会をお待ちしております。

- 個人会員／一口 3千円
- 団体会員／一口 2万円

### 賛助会員PRコーナー

年間約2万1千人が利用する国際プラザの3F交流サロン内に、A4パンフレットを配架できる賛助会員専用のスペースがあります。営業宣伝などにご利用いただけます。

- 年間契約／2万円
- 短期契約／1ヶ月2千円 (最低利用期間3ヶ月)

【お問い合わせ】

国際プラザ総務課  
電話:011-211-3670



# 25ヶ国以上の留学生と異文化交流、 多文化の共有を体験できる日本語学校です。

あなたのご都合に合わせた2コース  
**日本語教師養成講座**

教育訓練給付制度適用

(コース修了後、授業料の20%、最大10万円が戻ります。)

- 専科(6ヵ月間集中)
- 本科(午前・午後)

説明会随時実施中!

※入学時期は4月、10月の年2回。  
●無料で入学案内をお送り致します。お気軽にお問い合わせ下さい。



外国人のための日本語

JAPANESE FOR FOREIGNERS

■大学進学コース ■一般日本語コース

財団法人 日本語教育振興協会認定校

**札幌国際日本語学院**

Japanese Language Institute of Sapporo

〒064-0806 札幌市中央区南6条西26丁目2番7号  
地下鉄円山公園駅徒歩7分

TEL.011-562-7001 FAX.011-562-7002  
http://www.jli.co.jp/ E-mail:info@jli.co.jp